



えとうちよこ
恵藤千代子

乳幼児健診、大丈夫か

～5歳児健診の取り組みを検討～

質

乳幼児健診の回数は県内で最低。病気や発達の遅れを早期に発見する重要な事業だが、現状で大丈夫か。

答
市長

乳児の全戸訪問、「すくすくひろば・赤ちゃん教室」などで、現在のところ、フォローができているものと考えています。

質

虫歯予防対策に2歳歯科検診の実施を。また、発達障がいも早期に発見し、療育・教育支援につなげていくために5歳児健診の実施を。

答
市長

歯科は、県の「フツ素塗布事業」のモデル指定を受け、実施しています。また、5歳児健診は前向きに検討しています。



乳幼児健診

買物に困っている

〳〵集落営商を推進し、
新事業の展開も模索〳〵

質

市と市社協が協力を申し出た民間業者の『移動店舗販売事業』の経過と、地元業者への調整や協議は。

答
保健福祉部長

社協の小地域ネットワーク活動事業に係る民間企業協力機関として登録していただき、買物弱者支援と見守り活動を可能になることを期待しています。今後は、市内の多くの事業所の登録につながることを期待しています。

また、この事業は民間事業者の採算性の中でご協力をお願いするものでありますので、既存の事業者などとの

質

調整については、市が行政の立場から行うことも必要かと考えます。買物難民、今後の対策は。

答
産業経済部長

集落営商を推進し、商工会に委託している「商店街等活性化計画策定のための事前調査」の意見を踏まえ、新たな事業の展開も模索していきます。



移動店舗販売車

「地域の支え合い」 取り戻そう、見直そう

～集落機能の低下を懸念～



わ だ てつ はる
和 田 哲 治

質

①薄れ行く「地域の支え合い」が深刻な問題。今こそ再認識を求めて、行政から政策の展開ができないか、橋本市政に求める。

答

保健福祉部長

②増加著しい「過疎集落」・「高齢化地域」は「共助・協働」は欠かせない役割。「要援護者支援システム」の有効活用を望む。

過疎化・高齢化が進む本市。現在、高齢化率は36・4%、65歳以上が半数以上を占める「小規模集落」は55自治会。その中でも70歳以上の方が過半数を占

める自治会数は23自治会に上り、今後はさらに広がる事が予想されます。

民生委員を中心に「災害時要援護者名簿」を約2200人を対象に作成して、「あんしん見守りボトル」を配布・設置したところです。

本年度は支援対策を推進するため「協力員」を選任する予定です。



手作り担架で搬送訓練 (大野町津留地区)



冷蔵庫内に設置されているあんしん見守りボトル

質

普通市への移行まであとわずかか。これまで検討されてきた「歳出削減計画(案)」をこれからどう実施していくのか、その具体案を伺う。

「約40億円の削減計画」 市民へ分かりやすい説明と理解を

～人件費など3本柱で削減～

答

市長

具体的内容としては、人件費の削減(職員の半減など)で19億円。借金の返済額の縮小で8億円。事業・施設の見直しで13億円の3本柱で40億円を削減するとしています。

質

「行政評価システムの実績」と「内部評価の成果」は当初予算にどのように反映されているのか伺う。

答

市長

担当者による内部評価につきましても「事業の手法についての妥当性」や「コストを意識した効率性」についての評価は、十分なものは決まっています。評価制度と予算制度の実質リンクが図られるよう目指してまいります。